

～子供に夢や感動を！～

# 東京教師養成塾通信

発行日 平成 27 年 12 月 19 日  
＜第 8 号＞  
発行元 東京都教職員研修センター  
研修部教育開発課  
電話 03-5802-0318



「東京教師養成塾」は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会の連携を図り、東京都の教員になる豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を、学生の段階から養成しています。今年度で 12 年目を迎え、これまでに約 1,300 名以上の修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京都教育委員会が設置した東京教師養成塾の活動について知っていただくための通信です。

## ●第 5 回講義

### 「国際的な視野をもつ ～オリンピック・パラリンピックを通して～」

8 月 1 日（土）に、文部科学省初等中等教育局児童生徒課長 坪田 知広 氏を講師としてお招きし、第 5 回講義「国際的な視野をもつ～オリンピック・パラリンピックを通して～」を実施しました。今回の講義は、オリンピック・パラリンピックの開催、誘致、歴史等に関する講義を通して、日本と諸外国の価値観や視点の違いを理解し、国際的な視野をもつなどの社会人として必要な教養を高めることをねらいとしました。

講義では、これから求められる教育、2020 年東京大会の概要、国際的視野をもつための文化交流や観光交流、オリンピック・パラリンピック教育やキャリア教育について、お話をいただきました。



—講義の様子—

自分の国や世界の国の伝統や文化を理解すること、英語や非言語でコミュニケーションをする力を向上すること、アイデンティティへの理解を深めていくことなど、国際的な視野をもつとは、どのようなことなのかについて学びました。

#### ＜塾生の感想＞

- ・ 日本が世界に誇れる面をたくさん知ることができ、海外の人にもっと日本を知ってもらいたいという気持ちが高まった。国際社会を生き抜いていく子供たちに、自国を大切にする気持ちと他国を受け入れる心情を養わせられるよう、自分自身の価値観を豊かにしていきたい。
- ・ スポーツの推進や国際理解、バリアフリーなど、これからの社会で求められる力は、2020 年のオリンピック・パラリンピックを目標として、指導していくことが求められていると感じた。
- ・ 5 年後にあるオリンピック・パラリンピックに向け、教師として何をすべきなのか考えさせられる講義だった。児童にもオリンピック・パラリンピックに興味をもたせられるような指導の工夫を考えていきたい。

## ●第 6 回講義

### 「子供に夢や希望をもたせる ～キャリア教育の実際～」

10 月 31 日（土）に、筑波大学人間系教授 藤田 晃之 先生を講師としてお招きし、第 6 回講義「子供に夢や希望をもたせる～キャリア教育の実際～」を実施しました。今回は、児童・生徒一人一人のよさや可能性を伸ばし、自分の生き方を考えるキャリア教育の意義と役割を理解するとともに、キャリア教育の指導方法を学ぶことをねらいとしました。

前半の講義は、草創期からのキャリア教育の変容や知識基盤社会に対応できる力、小学校段階におけるキャリア教育の重要性、成果を指標とした評価方法への改善（PDCA サイクル）など、今の学びを将来につながる方策が多様にあることについてお話をいただきました。

後半の演習は、各塾生がそれぞれの指定校の「キャリア教育の全体計画」から、児童・生徒の実態や目指す児童・生徒の姿、身に付けさせたい力が具体的になっているか、明確な目標が設定されているか、その取組の成果について検証できるものになっているかなどを考えた後、グループで考えを交流しました。



—講義の様子—



—演習の様子—

#### ＜塾生の感想＞

- ・ キャリア教育の歴史やキャリア教育の意義を学ぶことによって、キャリア教育の重要性を改めて学ぶことができた。小学校段階では、今と将来をつなげて考えることができるような指導が大切だと学んだ。
- ・ キャリア教育では、学校や地域の特色によって、重点とする身に付ける能力が異なることが分かった。また、目標を決める時には評価することを考え、具体的な姿を考えなければいけないことを理解した。

## ●第14回ゼミナール

### 「学校の安全のために ～ワークショップによる指導技術の向上～」

### 「個に応じた教材づくり～ワークショップによる指導技術の向上～」

10月31日(土)に、第14回ゼミナール「学校の安全のために～ワークショップによる指導技術の向上～」、「個に応じた教材づくり～ワークショップによる指導技術の向上～」を実施しました。

今回のゼミナールは、小学校コースは、理科における具体的な実習を通して、児童が安全に学習を行うことができる指導方法や指導技術、教師が身に付けておくべき必要な安全への配慮についての手順等について学びました。

特別支援学校コースでは、情報教育機器等を活用した教材提示や教材作成の方法を理解し、授業場面で適切に利用するための指導技術について学びました。パワーポイントや写真等、ICTを活用した資料の作成方法や児童・生徒の発達段階に応じた教材の作成について学ぶことができました。



学校の安全のために  
～ワークショップによる指導技術の向上～

#### ＜塾生の感想＞

##### 【小学校コース】

- ・ 実際の実験を行うと、自分が考えていなかったところで困難を感じ、安全に配慮するために気を付けるべき点があることが分かった。このことから教師が事前に予備実験を行うことが大切だと感じた。
- ・ マッチを擦る向きやメスシリンダーの使い方など、細かいところは知らないことが多く、実験道具の使い方について学ぶことができた。安全指導について注意すべき点が甘かったこともあり、これからはしっかりと学んでいきたい。

##### 【特別支援学校コース】

- ・ ICTを活用した教材づくりでは、自分のイラスト等を取り込み、アニメーションにしたり、色付けしたりする方法を学んだ。アニメーションを駆使することで、生徒の集中力を高めたり、理解を促したりすることができることを学んだ。

#### 【授業づくりのポイント⑦】

### ◇学習指導における評価～形成的評価としての机間指導～◇

東京教師養成塾 教授 関口 純一

「分かる授業、できた喜びを味わえる授業にしたい。」「子供主体の授業にしたい。」などと願いつつ授業づくりに励んでいるのが、塾生の皆さんです。でも、なかなか授業がそのようにいかないことも現実でしょう。

そこで、学習指導における評価という視点から授業づくりを考えてみましょう。評価とは、指導と別のものでなく、一体のものと考えてることが重要です。つまり、子供が学習活動を行い、その中で教師が子供の反応や実態を捉え、それに即して適時適切な指導を行うという一連の流れに位置付くのが評価であるということです。「指導と評価の一体化」ともいわれます。ここでは、学習指導の評価として絶好の機会である机間指導に絞り、大切にしたいポイントについて考えることにします。

机間指導で大切にしたいのは、明確なねらいをもって行うことです。曖昧なねらいであれば、教師が教室内をただ動き回るだけで、先に示したような指導に結び付く評価にはなりません。例えば、次のようにねらいを定めて行うようにしましょう。

- どうしたらよいか分からずに困っている子供はいないか。
- グループの活動で孤立している子供はいないか。
- 課題が早く終わってしまって退屈している子供はいないか。
- 学習のねらいに即して、自分なりに工夫している子供はいないか。
- 課題に対してよい発想や気付きをしている子供はいないか。

机間指導は、ワークシートやノートに書く活動、グループで話し合う活動、課題を探究する活動、作品づくりの活動など、子供たちが問題や課題に取り組んでいる際に行うことができます。子供のつぶやきも含めて、気付いたらすぐに子供と関わり、指導の手を差し伸べることが肝要です。携帯した座席表にメモしたり、赤ペンを使って子供のノートなどに書き込んだりして、短時間で可能な限り多くの子供と関わるようにします。そして、よい気付きなどは大いに褒め、個別指導だけに終わらず全体に紹介することなども大切です。